

自分だけが助がねば、裏切り者

全ての組合員の皆さん。この八月十一日、千葉局において「千葉鉄道技能人協議会」と称する「マル生組合」が局課員八一名によってデッチあげられた。そして、断じて許せないことに、「協議会」デッチ上げに、自分だけは生きのびたいと逃げだした裏切り者・行方富士夫（津田沼支部）、井上宙丈（勝浦支部）が主謀者である事実が明らかとなった。裏切り者がどんな理由で言いつくろい逃げようとも、動労千葉・国労破壊を目的につくりだされたマル生組合であることにかわりはない。「千葉鉄道技能人協議会」を徹底的に解体しなければならぬ。裏切り者！行方富士夫、井上宙丈をたたきだせ。

動労千葉・国労破壊を目的に結成

動労千葉・国労組織の分裂・破壊のみを目的に発行されている「千葉鉄改革だより」なるもので「新組合統々誕生：：」との見出しで、「千葉鉄道技能人協議会」について、次のようにデッチあげ理由の説明をおこなっている。

「千葉局独自の組合として結成された」とことさら強調したりえで、デッチ上げ組合委員長・工藤某あいさつとして「技能人という中には、私達の現在ある仕事にプラス何でもやろうという覚悟がこめられており、正常な労使関係の維持により組合員の雇用を守ると共に、労使一体となって国鉄改革に取り組んでいくため系統をこえ各所から広く仲間を募り、二十一世紀へ向け新鉄道事業及びその関連事業の創造を目指して全力投球する」とし「マル生四組合」とも共闘するとしているのだ。

労働組合とは名ばかりのマル生組織

工藤某は、明言している。「労使一体となって改革に取り組んでいくため系統をこえ各所から広く仲間を募る」と。明らかに動労千葉・国労破壊の担い手！当局の先兵としてこれからやっていくと言っているのだ。その組織破壊集団の副委員長に行方富士夫、書記長に井上宙丈がはりつけられ、動労千葉破壊の役目を担うのである。さらに「協議会」は「全国協議会」結成へと動いてくる。

いま、当局は各局ごとに、局課員のパイパンや国労脱退の非現実のマル生分子に「〇〇労組」「〇〇協議会」「〇〇会」などの旗上げを次々とやらせている。どれもこれも労働組合などとは名ばかりで、動

労千葉・国労組織内に組織分裂者・裏切り者をつくりだすことのみを目的にデッチ上げられたマル生組織そのものである。

国鉄当局は、マル生敗北を教訓にして組織切り崩しに自ら手を汚そうとせず、動労革マル、鉄労らのマル生組合と、職制・局課員・非現実のマル生分子をその先頭に立たせ、情報、機関紙などあらゆる手段をもちいて行ってきた。

自己保身に汲々とし、仲間の首を売りわたすマル生分子は、裏切り者

千葉鉄局長・草木は国鉄職員の「不安」をいいことに「勤務成績」―「選別」―「首切り」の恫喝を様々な形で行い、組織分裂・裏切り者集団のつくり出しをはかってきた。職制グループの「拓創会」、非現実グループ「創葉会」結成はじめ、各区所のマル生グループのデッチ上げなど、まさに上から下までの自己保身をかけた「組織づくり」が激しく行われている。また、職場では、企業人教育・夏季手当差別、人材活用センター攻撃をかけた職員個々・職場全体へ意図的に雇用不安をあおり合裏切り者をつくる攻撃が動労革マル、鉄労を先頭に鉄「分割・民営化」が理不尽なものであり、国鉄労働者にとりてい受け入れられるものでない。そこで自己保身をはかる裏切り者をマル生分子に仕立ててマル生組織をさもマル生分子が自主的につくったようにデッチ上げさせたりえに「動労千葉や国労にいたら新会社に行けない」などと組織分裂―破壊を担せるネライがある。

分割・民営化攻撃の本質をみずに、ただただ自己保身に汲々とし、仲間の首を売りわたすマル生分子は「裏切り者」の烙印を押され、職場からたたきだされるしかなく、自覚させねばならぬ。

マル生組織「千葉鉄道技能人協議会」をデッチ上げ 主謀者：副委員長、行方富士夫、書記長、井上宙丈を許さぬ

なめかた ふじお いのうえ ちゆうじょう

全組合一貫の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！